

# 家族の介護 苦悩は私も

## 「福井の事件から考える」に反響

12/22  
SA1

父・母・叔母……次々と計17年

福井県で1月、9代の両親と息子の遺体が見つかった事件では、殺人疑いで逮捕された息子の妻が介護疲れを明かしていました。生活面で掲載した「福井の事件から考える」に対し寄せられたお便りにも、厳しい現実と疲弊する家族の切実な願いがつづられています。

(69)は、母(94)を介護していく。父と叔母の介護も経験する。1人で介護を担う生活が、2002年から17年続く。最初は父を介護した。その後、父と母、母と叔母を同時にみた時期もあった。

#### ■家族を介護する人から寄せられた声(要旨)

70代女性	夫を介護。老老介護がいつまで続くのか不安だらけ。隣人に手助けしてくれる人はいない
70代女性	認知症の夫を介護して7年。暴力や暴言を受け、本当につらい
70代女性	認知症の疑いがある夫は、介護サービスをすべて拒否する。私はほとんど外出できない
50代女性	80代の両親と3人暮らし。認知症の父に向かって母が怒鳴る。家に帰るのが苦しい
40代男性	両親を介護。「専門職へ相談を」と言われるが、財政難や人手不足でサービス提供を拒否されることも。問題を抱え込むのは当然だ
70代女性	義母と夫を介護して見送った。ケアマネジャーにことあるごとにアドバイスを受け、介護サービスを最大限利用して乗り切った

11月の記事「福井の事件から者  
える」には、家族を介護する読  
者が多く反響が届いた

**必要な時に相談先・支援ほしい**

「あの痛ましい事件を思う度に、同じ介護者として、涙が出ます」

首都圏で両親と3人暮らし始めた会社員の女性(52)の生活が一変したのは今年2月。

一方、父(83)は母がショックからか、認知

復している。

言ふ者居て両親とも入院暮らし復している。一方、父(83)は母が倒れた。だつた会社員の女性(52)の生活が一変したのは今年2月。母(80)が急病で倒れてからだ。7時間に及ぶ手術で命は助かたが、入院と長期のリハビリが必要になった。

最初に直面したのは、母の転院先探し。病院からは、2カ月で退院するよう迫られた。フルタイムで働きながら、ネットでリハビリができる病院を片っ端から探した。見学や面談のたびに会社を休んだ。

やつとの思いで見つけたり、ハビリ病院からも、数カ月で「次を探して」と言われ、いまは介護老人保健施設に。洗濯物を持って毎週末、車で往

ショックからか、認知症が一気に進んだ。同じ質問を繰り返し、コンロの近くに布巾を置いたり、ナミを決められた場所以外に捨てておきたり。その度にイラライラして、つい怒鳴ってしまう。言い返せない父は殴りかかってくる。

父はよその人には普通に接するため、民生委員に相談しても、「大丈夫よ」と言われる。それがさうにイラライラを募らせる。円形脱毛症が悪化し、帯状疱疹にもなった。

以前から勤め先の介護教室や一般の認知症セミナーに通つて、事前に勉強して備えてきたつもりだ。「優しくしな

があると難しう。  
周りからは「一人で抱え込  
まないで、サービスを使つ  
て」と言われる。だが、父が  
嫌がる上に、申し込むにも多  
くの書類を読み、平日仕事を  
休んで契約をしてからでない  
と利用できない。「困ってい  
るから、明日父を預かってくれ  
ださ」というわけにはいかな  
いのです」

父は鳥の回りのほほ全で  
で介助が必要になつていつ  
た。嗚うつもつけていた。朝  
起きるとまず父をトイレに座  
らせ、父が用足す間、台所  
で急いで栄養剤を準備。再び  
トイレに戻つて机油の世話を  
して、父を部屋に連れて行き  
栄養を注入する。終わると、  
大腸がんと肺がんを患つ母の  
食事の支度が待つていた。  
自宅で2人を介護するのは  
大変だったが、その前に母が  
入院した時、別々の場所にい  
る2人を見るのはもっと大変  
だった。

07年、母が下血し救急外来  
にかかると、大腸がんが見つ  
かった。そのまま入院。「ディ  
ケアから戻る父のために帰ら  
して翌朝また来ると医師に説  
明すると、「今夜にも死ぬか  
もしれない」と引きとめられた。  
た。だが、やむなく帰った。  
「一人ではそうするしかあ  
ませんでした」

09年に父が亡くなつた後、  
同市内で一人暮らしをする母  
が悪性リンパ腫を発症。却  
母は入退院を繰り返した。  
叔母の最期が近づくと、口  
中病院で叔母に付き添い、夕  
方帰宅して母の世話をし、夜  
再び病院へ。朝また帰宅して  
母の世話をした。ついには、  
まだ外に連れ出せた母と病院  
に泊まり込んで付き添つた。  
叔母は15年に亡くなつた。

生活の張りになるのは週4回、自宅でピアノを教える時間。ただ、その間も母に目を配る。1人でトイレに行こうとして軽ぶがらだ。2時間以上のお出ではできない。父の介護が始まった02年から旅行や遠出はせず、買い物はもっぱら近くのスーパー。「多くの家族が自分の生活を犠牲にする」と、在宅の介護が成り立つたいと願います】

女性は「母とはできる限り一緒に暮らしたい」と望む。ただ、仕事で忙しい日は、最低限の介助しかできない。髪がボサボサで、口や鼻をつけたままの母を見ると、申し訳ない気持ちになる。

11-52. 電子開關

**体験・ご意見を** 介護保険ができて、来年4月で20年を迎えます。超高齢化や家族の形が変わる中で、制度はほころび、そのしわ寄せが本人や家族、支え手に向かっています。介護をめぐる体験や悩み、意見を募集します。氏名、住所、年齢、電話番号を添えて、〒104-8011 朝日新聞文化くらし報道部・介護係、メールはseikatsu@asahi.comへお寄せください。

「でももう無理です」  
家族の会にも参加した。だが、忙しくて続かなかった。  
電話相談も田中だけだ。仕事があると難い。  
周りからは「一人で抱え込まないで、サービスを使つて」と言われる。だが、父が嫌がる上に、申し込むにも多くの書類を読み、平日仕事を休んで契約をしてからでないと利用できない。「困つていいから、明日父を預かってくれ」といふわけにはいかないのです」

なんよく分かっているんです。  
でももう無理です」  
家族の会にも参加した。だが、忙しくて続かなかつた。  
電話相談も田中だけで、仕事があると難い。  
周りからは「一人で抱き込まないで、サービスを使つて」と言われる。だが、父が嫌がる上に、申し込むにも多くの書類を読み、平日仕事を休んで契約をしてからでないと利用できない。「困つていながら、明日父を預かってくれ」といふわけにはいかないのです」  
普通に接して、親に相談しと言われたら、ライラを狂症が悪化させない中で「自分が死んだらどうなに渠か」と毎日のやうに思つ。しかすれば助かる、  
介護教室へ通うにまで備えてくらいいいのです」

**体験・ご意見を** 介護保険ができて、来年4月で20年を迎えます。超高齢化や家族の形が変わる中で、制度はほろび、そのしわ寄せが本人や家族、支え手に向かっています。介護をめぐる体験や悩み、意見を募集します。氏名、住所、年齢、電話番号を添えて、〒104・8011 朝日新聞文化くらし報道部・介護係、メールはseikatsu@asahi.comへお寄せください。